

- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは一きようめに書き、文しうは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ）月 日 曜日

# 太忠岳

永田小学校 田中 美空

明日、太忠岳に登ることになった。私は留  
 学生だから夏休みにな。てお父さんが会いに  
 来たんだ。お父さんは、太忠岳に登ったこと  
 がないから登りたいと言っていたが私は前に  
 登ったことがあったから、正直登りたくなか  
 った。でも、ほしい物を買ってあげると言わ  
 れたから登ることにした。

当日、車で永田から安房のヤクスキラント

まで朝早く家を出てむかった。むむかっ  
 たら、たからゆっくり入口まで歩いていっ  
 た。入口の横に鹿が静かに座っていた。黒く  
 すきとおった目がそこかいてんを見つめて  
 いた。そんな鹿を見ながら私は入口に入。て  
 いった。山の中は、思ったよりすずしくて泉  
 に歩けた。ひんやりとした冷たい風が優  
 通りますぎていった。空から木の葉たちがざわ  
 ざわ話していた。地面は、おちた葉の上  
 がふ。たのがきらきらかがやいていた。木と

- 4 と、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいちくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しうは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

（ ） 月 日 曜日

木のあいだから見える空はいろんな形に見え  
 た。切り株は、さるが住めそうな空どうにな  
 っていた。前に登ったときに思わなかつたこ  
 とに気づいてきた。登りながらさういう物を  
 たくさん見つけていた。橋をわたっている  
 ときは、強くたくましい音をたてながら流れ  
 ていた。私はその川に元気をもらったよな  
 気がした。だんたんひんやりしたはたが温く  
 なってきた。周りには、小さな花が咲いて空  
 から木をつきぬけて光がさしこんでいた。と  
 てもげんそう的だった。少しつかれていた心  
 がいやすられた。休けいをしながらい登りつづ  
 けた。さうとう周の石が大きくなってきた。  
 大きな岩やつみかさなつた石のかべにロー  
 プがたれていて、そこを登り始めた。アスレ  
 チックで遊んでいるような気持ちになつてと  
 てもわくわくした。そしてとうとうこの山  
 で見た中で一番大きい岩が見えた。前に一回  
 見た太忠岳が初めて見えるあの景色だった。  
 もうすぐで頂上だと思つたし、人間から元

- 4 と、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくしよとにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

( 月 日 曜日 )

気が出てきて走る勢いで登った。最後の口  
 づを登り切って、とうとう頂上についた。

久しぶりに見たあの景色は、かわらずにの  
 こっていた。とても高く、何個かの山を見

おろしているような気分になった。すずしく  
 こ、夏とは思えないくらいだった。だれもい

なかつた。だから大きな声でさけんでみたりもし  
 た。しばらく景色を見てからお弁当を食べた。

いつも食べているはずの料理か。とてもおい  
 しかった。他にもおかしも。とても甘くて

おいしかった。食べ終わって、少し下に降  
 りたところに神様をまつでいき所に行きま

した。そして、しかりおまいりをしてから  
 山を下りました。

最初は、行きたくなかつたけど登り終った  
 ときにとっても達成感を得ることができまし

た。

- 4 と、とは、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなだけを書きましよう。

(不許複製)

